

おわりに

5年前に監査役に就任したときは、知識も経験もなくまた引継ぎもなく、いったい何をやればよいのかわからない白紙の状態からのスタートでした。

これは私が例外ではなくむしろ一般的な新任監査役の姿であることが、日本監査役協会の研修や監査実務部会に参加してわかり、ある意味では安心したことを覚えています。財務・会計の知識がある方でも監査役とは何か、どういう監査をすればよいのかについては、監査役になってから学んでいくものだと思います。本書が、監査役になりいったい何をすればよいのか、合格点がつく監査活動とはどのようなものかなどについて、悩み学習しようとしている監査役の方々のお役に立てれば嬉しいと思っています。

監査役は監査活動のゴールは経営者と同じで、監査を通じて会社の発展に貢献することであり、一言でいえば、「企業価値を上げる」ことだと考えています。しかし、売上・利益を上げるというような具体的な目標を社内で共有する訳でもないの、会社においては孤独な存在になりがちです。特に、会社内の人脈が少ない社外監査役であればなおさらです。

監査役になる前は、会社の仲間と一杯飲みながらストレスを発散することもできましたが、監査役になるとなかなかそうはいきません。そのような立場にある監査役が頑張れるのは、同じ目的意識をもつ監査役の仲間がいて、お互いに情報を交換し交流することで支えてくれるからだと感じています。監査実務部会に入っていない方で悩んでいる方がいましたら、扉を叩いてみたらいかがでしょうか。

最近の企業不祥事を振り返ってみたとき、監査役で一番大事なのは知識よりも勇気かもしれないと思いました。おかしいと感じたら質問し、納得するまで妥協しないことが大事です。監査役は任務を無事全うするためには、いざというときは経営者と対峙する勇気が求められています。

最後になりますが、本書の取りまとめにあたり、日本監査役協会の新井義洋氏、雁部智博氏からご支援を頂きました。また、B1-2Gのメンバー諸氏の励ましにも支えられ、特にそのメンバーである津田進世氏、増田猛氏からは資料の提供等のご協力を頂きました。この場をお借りして、感謝の意を表します。

平成 24 年 11 月

著者を代表して

國吉 信男